

講演会 & ライブ な日々⑪

古川 秀明

「大阪府門真市新任教職員研修会」

門真市の新任研修会は毎年1月の第一週に市民プラザで開かれるので、それを自分の仕事始めとしている。



気が付けばもう20年続けている。

まだ30代半ばのひよっこカウンセラーが、わかったような顔をして何かを教えていたと思うと恥ずかしい。

20年間やっていることはずっと同じで、ケース検討会。

学校で困っている事例を家族療法の視点で考え、解決策を考える。

20年間やり方を変えていない。

心理に限らず対人援助領域ではいつも新しい技法や考え方が持てはやされる。

文科省などの通達で「虐待」「発達障害」「いじめ」「不登校」「性同一性障害」など、その年に取り組むべき項目を指示されると、それに関する専門家が呼ばれる。

そんな中でずっと私を選んでもらえている理由は、同じことを細く長く続けている力があるからだろう。

その力は家族援助に他ならない。

特にこの地域では家族援助の視点が役に立っているようだ。

20年前初めてこの地域の駅前交差点に立った時、ひとりの中年男性がじっと私の顔を見ていた。

最初は私の近くにいる人を見ているのかと思って周りを見たが、私しかいない。

男性はじっと私の目を見ている。

なんだか居心地の悪くなった私は、男性に向かって「すみません、どこかでお会いしましたでしょうか？」と笑顔で尋ねると、男性は「見ず知らずの他人が俺に話しかけるなや！なんで見ず知らずの他人がしゃべりかけてくんねん！お前あほやろ！話しかけてくんや！」と大声で叫びながらどこかへ行った。

私は一刻も早く教育委員会に異動願いを出し、もっと静かで落ち着いた地域に配置転換してもらおうと思った。

ある日赴任先の中学で記録を書いていると、窓の向こうにある壁（人の胸の高さくらい）からまたどこかの知らないおじいさんが私をじっと見ていた。

なにげなく顔を上げて窓を見ると、そのおじいさんと目が合ってしまった。

おじいさんは私を手招きした。

私 : 「こんにちは」

おじいさん : 「お前いったい誰やねん！」

私の心の声 : (うわっ、またこんな人や・・・)

私 : 「私はこの中学のスクールカウンセラーです」

おじいさん : 「はぁ？スクール・・・なんやて？」

私 : 「あ、はい、スクールカウンセラーです」

おじいさん : 「スクールカウンセラー？ワシはこの中学出身やけど、ワシの時代にはそんな奴おらへんかったぞ。なんやお前怪しいな」

私の心の声 : (あんたの方がよっぽど怪しいやん)

私 : 「怪しくありませんよ。ほらこの名札にちゃんとスクールカウンセラー古川秀明で書いてあるでしょ」

おじいさん : 「ワシが言うてんのは名札の話とちゃうねん。お前が怪しいて言うてんねん！」

私の心の声 : (うわ、このおじいさん酒臭いわ。まだ午前中やのに・・・)

私 : 「私の何が怪しいんですか？」

おじいさん : 「何がて、そんなスクールなんか言う横文字を言うてワシをたぶらかそうとしてるのが怪しいんや。だいたいそのスクールなんちゃら言うのんは何や？」

私 : 「スクールカウンセリングです。生徒さんや親御さんの、こころのしんどいことの話しを聞かせてもらうのが仕事です」

おじいさん : 「へ～、酔狂なことやってるんやな。ご苦労さん」

私 : 「いえいえ、そんな。仕事ですから」

おじいさん : 「は？仕事やと？仕事ということは給料もうとんのか？」

私 : 「はい、お給料もらわないと生活できませんから」

おじいさん : 「ははぁん、お前カタリやろ！」

私 : 「カタリ？カタリて何ですか？」

おじいさん : 「カタリいうのんは人の話を聞いて銭を巻き上げるペテン師のことや。お前みたいに身体を使って働かずに、口先三寸で銭を巻き上げる奴をカタリて言うんじゃ！」

私の心の声 : (誰か助けて～～)

ちょうどその時にスクールカウンセリング担当の生徒指導主任A先生が来た。

A先生はおじいさんを見るなり怒鳴り付けた。

A 先生：「また朝から酒飲んどるな！今日はもうK（おじいさんの息子）に言うから
覚悟しとけよ！」

おじいさん：「ちょっと待ってくれや、俺はこいつがスクールなんたら言うて、俺をごま
かそうとするカタリちゃうかとおもて注意してたんや。もし怪しい奴なら
孫もここに通っとるから大変やとおもただけや」

A 先生：「やかましい、そっちの方がよっぽど怪しいわ。さっさと帰れ。二度と古川
先生に構うなよ」

おじいさん：「偉そうに言うな！お前も昔は新任やったくせに」

A 先生：「誰かて始めは新任じゃ！はよ帰れ。今Kに電話してもええんやぞ！」

おじいさん：「うっさいボケ！二言目にはKKKKKKK言いやがって、帰ったらええん
やろアホンダラA」→自転車で帰る。

私は再び一刻も早く教育委員会に異動願いを出し、もっと静かで落ち着いた地
域に配置転換してもらおうと思った。

なんて恐ろしい所なんだろうと思いながら、結局20年もこの地域に関わっている。

どうやらこの土地柄が私の体質に合っていたようだ。

スクールカウンセラーとしての席は若い人に席を譲ったが、社会教育委員と新任
研修会の講師や講演会は引き受けている。

最初はあるなりに嫌だと思った土地が、いまでは郷土愛に近い感情をもっている。



参加者はみんな自分の子どもと同じくらいの年齢になった。

そのうち「私の親がこの研修会を受けたと言っていました」なんて時代になるかもしれない。

研修会のあとはいつも自作の歌を聴いてもらっている。
もう少しこの地域で役に立つことがあればがんばりたいと思う。

シンガーソングライター
ふるかわひであき